

(別記様式)

平成29年度 京都府立八幡支援学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（年度末評価）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>◆教育目標「つながり・チャレンジする子どもたち・学校」を学校経営の中で具現化・具体化し、発信する学校を目指す。</p> <p>◆共生社会の形成に貢献する「特色ある特別支援教育」を推進し、これからの特別支援教育において積極的な役割を果たす学校を目指す。</p> <p>◆全ての児童生徒が、社会の中でより良い生活を実現する力を獲得するために、可能性に着目し、可能性を伸ばす教育を徹底する学校を目指す。</p>	<p>○学校経営 文部科学省事業に全校全てのクラスで取り組むことから、年間をとおして一貫したテーマとまとまりのある学校経営を推進することができた。</p> <p>○教育活動 文部科学省事業を活用し、外部専門家からの適切な指導助言を得て授業改善が進んだ。また、交流及び共同学習と他の指導場面を関連付けることから、総合的なカリキュラムマネジメントが進んできつつある。</p>	<p>文部科学省「平成29年度特別支援教育に関する実践研究充実事業」の指定を受け、以下を重点目標とし、事業に全校で取り組む。</p> <p>○学校経営</p> <p>①「社会の中にある学校」を具体化する開かれた学校経営の推進</p> <p>②特別支援学校教員、教育公務員として、指導の専門性に加え、高い危機管理意識・人権意識、社会性、協調性と自己研鑽力及び子どもを愛し、育む情熱をもった人材の育成</p> <p>③平成30年度職業学科設置に向け、関係機関等と連携し、遅滞なく準備を進める。</p> <p>○教育活動</p> <p>①実践研究充実事業に取り組むことによって「つながり・チャレンジする子どもたち」の育成を全ての授業、全ての指導において追求することから、授業・指導の改善、教育課程の改善を図る。</p> <p>②地域関係機関（教育・福祉・労働・行政）及び地域社会との連携を一層強めた教育活動、センター的機能の発揮により、地域におけるインクルーシブ教育の推進並びに共生社会の形成に貢献す</p>

評価	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	・教育目標を具現化・具体化する、一体感のある学校経営の推進	・学校経営方針を各学部、各分掌で具現化する一貫したマネジメントの実施	B	<p>・管理職会議及び企画経営会議において、学校目標を意識した各分掌のマネジメントプランを作成し適切に計画実施できた。</p> <p>・学校予算も適切に執行できた。</p> <p>・「働き方改革」として衛生委員会が勤務実態調査を2回実施、出退勤時間打刻システムの導入により残業時間把握はできた。改革推進プロジェクトを立ち上げ、残業時間の縮減につなげることが課題である。</p> <p>・職業学科設置準備は、遅滞なく行うことができた。</p>
		・学校予算の適切且つ計画的な執行	B	
		・「学校の組織力向上プラン」を踏まえた職員が自分の心身の健康を大切に、同僚の心身の健康に気づかえる職場環境の形成（勤務実態調査の実施、総勤務時間縮減の取組の実施等）	B	
	・職業学科設置に向けた諸準備の遅滞なき実施	B		
・人が育つ研修会等の計画的推進	・重点目標の達成及び各種ニーズに基づいた研修会の計画的実施（医療専門職派遣事業等による外部人材の積極的活用）	B	B	<p>・研修支援部を中心に計画的に研修会を実施できた。</p> <p>・医療専門職派遣事業については早くに計画をする必要がある。</p> <p>・全学部において進路研修会を実施、意識を高めることができた。</p> <p>・指導を見直すアンケートの実施により現状の把握と規範意識及び人権意識を高めることができた。</p>
	・教職員、保護者の希望進路実現への意識を高める研修会等の実施（外部人材等を活用した職員研修の計画的実施 1回/年以上）	B		
	・職員の人権意識、規範意識向上のための研修会の実施	B		
・「地域支援センターやわた」の機能を生かした、地域における	・地域の学校等に特別支援教育力をつける特徴ある取組の実施	B	B	<p>・地域からの相談業務に適切に対応し、連携協議会を実視することにより、関係機関とのつながりを強化することができた。</p>
	・個別の指導計画等の作成につながる教育相談の実施	B		

	特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 校内巡回相談員の積極的活用による組織的な支援の実施 幼稚園・保育園、高等学校を含む関係機関等との連携の強化 	B B		また、早期支援学習会の開催など地域のニーズに合った研修会が実施できた。
	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会に開かれた学校経営の推進 学校評議員、保護者、地域住民等による学校評価を活用した学校経営の改善 桃山学園との確実且つタイムリーな組織的連携の実施 京都八幡高等学校、地域関連機関等との組織的連携の強化 	<ul style="list-style-type: none"> HP、学校だより等を活用した学校情報の積極的発信（HP更新10回/月） アンケート等による学校の自己評価の実施及び公開（2回/年 以上） 学校関係者評価委員会会議の開催（3回/年 以上） 確実な日常的連携及び課題発生時の即時的連携の実施 専任分掌による組織的連携の充実 	A B C B B	B	<ul style="list-style-type: none"> HPや学校だより等を活用した教育活動の発信を行った。（HP更新平均15回/月） また、中学部を中心に月1回の授業参観を実施することができた。 学校関係者評価は2回実施であり、計画どおりの開催ができなかった。 専任分掌により外部との交流及び共同学習を拡充できた。また、地域での活動の場を広げることができた。
	安心安全を具体化する取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練、緊急対応訓練の計画的実施（各年2回以上） 危機対応マニュアルの作成と共有 医療的ケア担当者会の機能を活用した安全で適正なケアの実施 児童生徒一人一人の人権を大切に取る取組の推進（いじめ対策委員会による調査 2回/年） 教具等の安全点検の組織的な実施（5回/年 以上） ヒヤリハット事象等の即時共有と教訓化 	A B B B A B	B	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練は2回実施し、医療的ケア対応児童生徒における緊急対応マニュアルに基づいた訓練を実施し、具体的な動きを確認することができた。 いじめ調査に基づいた対策委員会を2回実施した。 校内安全対策として、毎月教具等の安全点検活動を実施した。ヒヤリハット事象においても即時共有化を図り、報告書の作成により教訓化することができた。手順の確認を毎回複数の者で行うことを徹底する必要がある。
教育課程・学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 各教科等を合わせた指導を中心とし、教科別の指導、領域別の指導と関連づけた特色ある教育課程の編成・実施 社会とのつながりを大切にした「社会に開かれた教育課程」に基づく実践の積極的展開 児童生徒一人一人が「つながり・挑戦する」力を身に付ける指導の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 学部単位及び全校での授業研究会の実施（目的に応じた外部専門家の活用） 先進校への視察派遣等による授業に生かせる情報収集と学部・全校での情報の共有 交流及び共同学習の教育的な効果について、他の指導との総合的な関連の中での実践的検証 社会とのつながりを意識した実践の更なる積極的展開 ニーズに基づく居住地校交流、インクルーシブ交流及び学校間交流の計画的な実施 	A B A A B	A A A	<ul style="list-style-type: none"> 実践研究充実事業で、外部人材を活用し研究会を全校及び学部単位で実施することができた。 つながりのある教育活動として、全クラスが年間指導計画に交流及び共同学習を位置づけ取り組むことにより、検証を行うことができた。これを次年度以降につなげ継続発展させていくことが課題である。 中・高等部を中心に校内での活動を、地域社会で実践する取組へと展開することができた。 計画的な学校間交流は実施できたが、八幡市小学校特別支援学級と小学部の交流が小学校側の都合で実施できなかった。
	一人一人の希望進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な進路指導による高等部3年生全員の希望進路の実現 関係機関と連携した生徒の希望に相応した企業開拓の実施 	B B	B	<ul style="list-style-type: none"> 職場実習及び進路相談を実施し、希望進路実現へ繋げることができた。 学部ごとの進路説明会を行うことにより、早い時期から卒業後の姿を考える良い機会となった。 今後も一人一人の状況を踏まえて丁寧に指導を進めていく。
	全教職員による希望進路の実現に向けた取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> 計画的組織的な全校的進路指導の実施 全校保護者への進路情報のタイムリーな提供及びニーズの掘り起こし 	B B	B	

学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革は、難しい面もある。児童生徒の状況によっては、時間外の勤務になってしまうことがある。行き違いのないよう連携をはかってほしい。 中学部の時から働くことへの取組は良いと思う。学校生活と職場にギャップがある。在学中に力をつけて何とか「働く」ことへの意識付けをしてもらいたい。 スクールバスについては、バス内で不安定になることもあるが、本年度同様安全運行をお願いしたい。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 2年間取り組んだ文部科学省事業を継承発展させ、一人一人の共生社会の形成への貢献を目指す。 校務分掌及び会議設定の見直しによる「働き方改革」を実施していく。 防災及び危機管理意識を高め、安全安心な学校にする。

